

## クロキヅタ

*Caulerpa scalpelliformis* (Turner) Agardh var. *scalpelliformis*

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

隠岐諸島西ノ島の黒木御所跡近くの浅海で日本で最初に発見され、それにちなんでクロキヅタと命名された。海藻類としては唯一、国の天然記念物に生育地域が指定(大正11年)されている。

隠岐諸島以外では愛媛県と高知県に分布をみるのみで、南西諸島にはアマミノクロキヅタがある。隠岐諸島においても分布は非常に限られており、潮流と海底質との微妙なバランスの上で繁殖しているものと思われ、防波堤の建設などによる海水の汚濁によって生育地域が減少傾向にあると思われる。

## 【概要】

体は匍匐する円柱状の茎状部と下方に繊維状の仮根を認める。匍匐枝の上方には、幅1-2cm、高さ10-20cmの緑色の平たいりボン状の葉状部が分岐しないで直立している。葉状部の縁は鋸のようなギザギザの切れ込みがあるのが特徴である。

## 【県内での生育地域・生育環境】

島根県では隠岐諸島でのみ生育が確認されている。天然記念物の地域保護指定地になっている隠岐諸島西ノ島の別府湾、黒木御所跡周辺、中ノ島海士町菱浦湾周辺のほか島後での繁殖は確認している。生育環境は実にさまざま、砂礫質の浅い海底2mでは、砂に埋まってる岩上を中心として砂地上に匍匐枝を伸ばして、直径2-3mのコロニーを形成しているが、防波堤のコンクリート面や船の係留ロープ、直径50cmほどの転石上にも集団を作っており、水深30cmから2mの深さの冬場の波の影響を受けにくい場所で繁殖しているものと思われる。

## 【存続を脅かす原因】

沿岸域の埋め立ておよび生活廃水などの流出による海水の汚濁。漂着ゴミによる生育環境の悪化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	海中	
			◎																				○